

沖縄平和学習に参加して①

実際に現地を見て・肌で感じる大切さ 心から戦争反対と言える自分の中の軸が構築

今回、沖縄戦の学習会で一番最初に訪れたのが、沖縄陸軍病院南風原(はえばる)壕群20号でした。

現在ではきれいに整備され、陸上競技場や野球場が併設され、その脇道を5〜10分登った所にまず出口が、さらに登った所に受付となる入口が姿を見せました。

案内をしてくれる方が、南風原郵便局で道順組み立てのアルバイトをしているという、まさかの同

業者サプライズもありましたが、皆一様に真剣な眼差しで、貴重な話に耳を傾けていました。

沖縄陸軍病院は当初、那覇市内の学校を使っていました。1944(昭和19)年10月10日の空襲で施設が消失したため、南風原分院のあった南風原国民学校に移動しました。その後、学校は空襲で焼かれたため、黄金森と呼ばれる小高い丘の中に掘られた壕(当時は

約30の壕があったらしい)に移動しました。

その中で軍

医・看護婦・

衛生兵ら約3

50人に加え、

ひめゆり学徒

隊も教師18名に引率され222名

動員されていた。とくにこの20号

は、内科の中心的な壕として患者

の病室・勤務者室として通路に二

段ベットが並べられていましたが、

1945(昭和20)年4月からは

壕と壕を結ぶ中央部の十字路、昼

約一昼半程のスペースが手術場と

なり、ロウソクの光だけを頼りに

麻酔なしで行われました。しかも、

ほとんどの手術が患者の手足を切

断するものでした。

高さ・床幅ともに約1・8mの

横穴壕で、重症患者のうめき声、



手足を麻酔なしで切断される患者の悲鳴、死臭や膿、糞尿の臭いがたちこめるジメジメとした中、ロウソクの光だけを頼りに働き続ける状況。それに駆け回るのは、まだ未成年のひめゆり学徒隊（現在の中高生の年齢）：食事の運搬・

水汲みはもちろんの事、糞尿の処理、切断した手足の処理や息を引き取った兵士の死体埋葬なども、砲弾飛び交う壕の外に出てしなければならなかったそうです。当然ながら、爆撃を受けて、教師2名、学徒9名が亡くなりました。

戦火がひどくなり南風原を撤退するとき、全ての重症患者を連れてはいけませんので、迎えに来ると話し南下しましたが、その後日本兵が戻ってきた理由は、青酸カリを飲ませ自決（殺害）させる為でした。アメリカ兵に捕らわれてこちらの情報が流れない為です。

元氣をつけるためと偽り、牛乳に青酸カリを混ぜ飲ませるやり方だったそうです。

その異変に氣

付き、逃げた兵士を追って同じ日本人の兵士に銃撃を受けたそうですが、壕はもともと、アメリカ兵に襲撃されても弾丸が当たりづらいように道をS字に作っていた為、何とか命からがら助かったそうです。

その後、アメリカ兵によって火炎放射機で内部は焼かれ、その時出来た黒く焼けた坑木や壁・天井が現在も保存されています。

また、地中に隠すように埋められていた医薬品類も展示されていて、戦争の闇・苦しみに触れるには大変貴重な場所でした。もしこ



の状況に自分が居たのならば、平静を保てず、精神の異常をきたすだろうと考えた時、当時の女性の強さに驚き、また、上官の命令・国の命令は絶対だった戦争の恐ろしさに恐怖を感じる事ができました。

本で読む学習ももちろん大切で必要な事です。しかし、それをもとに実際に現地を見て・肌で感じる大切さを知ることができた、心から戦争反対と言える自分の中の軸が構築できた沖縄平和学習会でした。

最後に、沖縄陸軍病院南風原壕群20号のチケットに記載されている、詠みを載せさせていただきます。

『切り落とせし兵の脚をば埋めにゆく女子学生ら唇噛み駆ける』

長田紀春

(T)

日刊

ア新東京

No.915

2012年
7月3日(火)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

沖縄平和学習に参加して②

基地のある町が抱える問題にもこと 関心を持って戴きたいと強く感じました

沖縄平和学習2日目に嘉手納基地、普天間飛行場を外から見学しました。

はじめに嘉手納基地（アメリカ空軍基地）の見える「道の駅かでな」の4Fから基地を見渡しましたが、その規模の大きさに改めて驚きました。

私の地元は、横田基地が近くにあるので騒音に関しては他人事ではありません。4000M滑走路が横田の倍の2本もあるので、騒音は倍以上になることは容易に想像できました。見学当日は沖縄慰霊の日ということで、飛行機の離着陸は殆どありませんでした。しかし、

有事の際には大量の飛行機が出動することになるので正直怖ろしいです。湾岸戦争やイラク戦争時に地元瑞穂町で、昼夜問わず輸送機や情報収集機が頻繁に上空を旋回していた時の光景をふと思い出してしまいました。

その後、車で国道58号線に入り基地の横を走りました。フェンスの向こう側に大量の米軍軍事車両が停車しているのが見え、その数の多さに圧倒されました。よく見てみると中東仕様と思われるタイプのハマー装甲車（デザートカラー）も置いてあり戦争が少し身近に感じられました。



嘉手納基地は極東最大の軍事基地と言われるように基地の規模も航空機、軍用車の数も本土の基地を上回るものであり、あらためて基地周辺の深刻さを知ることが出来ました。

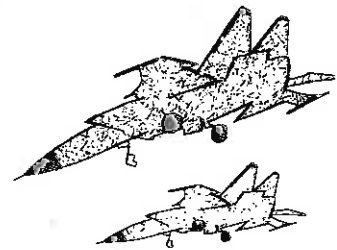
次に普天間飛行場の見える嘉数高台公園へ移動し、高台から飛行場を見下ろせる場所へ。

すると基地フェンスのすぐ近くに住宅等建物が密集しているのが見え、「こんなに基地から近いのか」と思わず声が出てしまう程でした。東京の横田基地周辺にも公団住宅や小学校はありますが、基地からは少し離れており、普天間飛行場は規模こそ嘉手納より小規模にもかかわらず、ここまで建物との距離が近いのかと驚いてしまいました。

普天間は移設問題を以前から抱えており、鳩山政権時にはこの問題が取り上げられましたが進展には至っておりません。

また現在問題の多い新型ヘリコプターMV22オスプレイの普天間配備が決定してしまいました。2004年に沖縄国際大学にヘリが墜落した事故のような問題が、再び発生するのではないかと心配されています。

今回現地案内して戴いた那覇支部組合員の2人は、今まで普天間基地を見るのは「小学生の社会科学見学で行っただけ」あるいは「初めて見ました」と話し



ており、この問題について殆ど知らなかったそうです。これは地元に住んでいないと分からないということもあり、私にも共感できる所はありました。

横田基地についても基地周辺の人々が思っていることを都心のひとは全く知らないのと同じだからです。

今回の平和学習を通じ那覇支部のみなさまが「もっと地元の平和や基地問題について学ばなければならぬ」と述べられていたように本土のみなさまにも基地のある町が抱える問題にもっと関心を持って戴きたいと強く感じました。

(H)

沖縄平和学習に参加して③

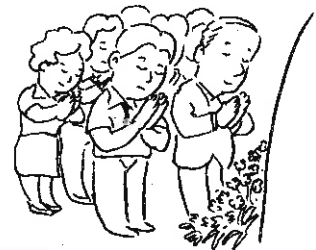
教科書でしか戦争の悲惨さを知りませんでした、
現地で見るものすべてが勉強になりました

平和学習会の一日目(6月22日慰霊祭前日)の最後に糸満市摩文仁(まぶに)の丘にある平和祈念公園に行ってきました。次の日が6月23日の沖縄慰霊の日ということもあって、大勢の人が集まり戦没者慰霊の準備をしていました。祈念公園では、平和の祈りを込めたキャンドルに一本一本火を灯していました。作業していた地元の学生に聞い

てみると「5000本を用意しています。自主的に参加していただきます」と聞き、あらためて沖縄のひとの平和への思いを感じ、沖縄の人達の先人にたいする思いが伝わって来ました。私たちは「通魂之塔」をめざして歩きました。通魂之塔は沖縄戦でなくなった郵政関係者や通信関係者の426柱の名前が刻まれています。この通魂之塔

に新東京支部で作った千羽鶴を奉納してきました。千羽鶴には「沖縄戦の悲劇を繰り返さない」、「新型ヘリオスプレイは危険」、「鎮魂」などと短冊にみんなの願いが込められています。

平和の礎(いしじ)は沖縄戦終結50周年の1995年に沖縄県民の強い要請のもと完成しました。沖縄で犠牲となった沖縄県民や国内そしてアメリカ軍の犠牲者も含め20万余すべての人々の名前が刻まれています。平和の礎は、大きさが私の胸の高さまであり黒い石に白い文字で亡くなったひとの名前が刻まれています。目の前に広がる礎に圧倒され、私はこれだけ多く



のひとが亡くなっているんだなと驚きました。

摩文仁の丘から見た海は、南部へ追いつめられたひとが海を見て「もう逃げられないんだ」と崖から飛び降りたり自決したところですよ。私は、悲しすぎて写真を撮ることが出来ませんでした。

太平洋戦争が終わって67年、本土復帰40周年ですが、本当の意味での平和はまだなんじやないかと思えました。米軍基地の騒音やオスプレイなどの軍用機の墜落の危険：沖縄の人達の抱えてる問題が解消されて本当の平和が訪れる日が来ることを一日でも早く願っています。

私は戦後の生まれで教科書でしか戦争の悲惨さを知りませんでした。が、現地で見るとものすべてが勉強になりました。
(T)

看護職員の離職防止と 労働条件改善を求める署名

医療現場は人手不足と長時間・過密労働のため看護職場の労働条件は日々厳しさを増しています。連合は「医療介護福祉は不可欠なインフラである」「長時間労働のリスクと生体リズムに着目した労働環境改善」「看護職員の処遇改善」を確認して運動をスタートしています。署名活動にご協力下さい。

第一次集約 7月18日(水) 第二次集約 7月25日(水)

日雇雇用保険と日雇特例健康保険の 受給要件緩和を求める署名

総務省調査では約100万人を超える日雇い労働者がいる。一方、2010年度の日雇労働被保険者数はわずか20,767人にすぎません。日雇い労働者の場合は、2ヶ月で印紙26枚(26日労働)、6ヶ月で78枚以上ではじめて日雇雇用保険の受給が可能となります、また、健康保険適用でも同様な状況です。雇用保険適用では週労働時間換算で26時間であり、セーフティネットを厚くすることが必要な労働者がかえって格差のある薄い保障制度となっています。雇用調整助成金適用でも日雇い労働者を対象としていません。署名活動にご協力下さい。

第一次集約 7月18日(水) 第二次集約 7月25日(水)

日 刊

ア新東京

No.917

2012年
7月5日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

沖繩平和学習に参加して④

戦争がほんとうにすべてを奪い去ってしまう

戦争で犠牲になるのは

いつも、力が弱く立場の弱い者たち

6月22日から2泊3日で訪れた
沖繩平和学習は、その最終日に「対
馬丸記念館」に赴いた。

「平和記念公園」や「ひめゆり
の塔」などと比べれば、あまり有
名とはいえないかもしれない。し
かし、沖繩で平和を学ぶうえでは
大切な場所のひとつであると思
う。

記念館の名前にある「対馬丸」
とは、沖繩からの疎開者に乗せる
のに使用された貨物船である。

1944(昭和19)年8月22日、
鹿児島県・悪石島付近で米海軍潜
水艦ボーフィン号の魚雷攻撃を受
け沈められた。このとき、乗船者
1788名のうち1418名が亡
くなり、775名が疎開児童であ

った。

記念館に足を
踏み入れたとき、

正直わたしは拍
子抜けした。展

示物がほとんど
無いのだ。対馬

丸沈没までの経緯や犠牲者名簿、

当時の時代背景などを記すパネル

はあっても、実物展示はかぞえる

ほどしかない。建物も決して大き

くはなかったが、それを差し引い

ても少ないと感じた。

それもそのはずで、犠牲になっ

た子どもたちのほとんどが、那覇

市内の学校に通っていた。那覇市

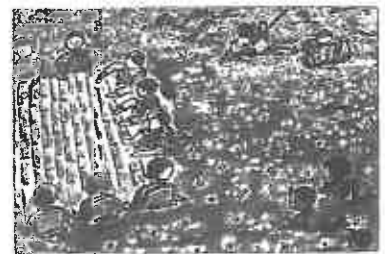
は10月10日の空襲で9割が焦土と

化し、その後の戦闘などもあって

遺品・遺影の類が消失してしまっ

ていた。そして、対馬丸はいまも

海の底に沈んでおり、引き揚げる



ことができないためだという。

それを知って、わたしは胸が締め付けられる思いになった。本来なら戦争とは無縁であったはずの、幼い子どもを亡くしたただけでも、身を切るような苦しみだと思ふ。そのうえ想い出の品や写真で懐かしむこともできず、遺骨の入らぬ墓に手を合わせねばならない。そんな子どもの親や遺族のこころの内を思うと、子の親となつたことのないわたしでも、やるせない気持ちになった。

確かに戦争の悲惨さ愚かしさを伝えるうえで、実物展示は貴重だし重要だと思ふ。しかし、実物が残らなかつたこと、残せなかつたことは、戦争がほんとうにすべてを奪い去ってしまうのだと、わたしは考えさせられた。

戦争で犠牲になるのはいつも、

力が弱く立場の弱い者たちだ。「対馬丸」の児童然り、

「ひめゆり」の女学生然り。

「ひめゆり」の彼女たちは、本来なら恋に友情にと青春を謳歌する年頃だ。「対馬丸」の児童も、平和な世であれば将来の夢に瞳を輝かせていたはずだ。

前途ある少年少女が、夢や希望を見出すことなく、散っていかねばならない時代があつたことを忘れてはならない。そして、現在も世界の紛争地域では、こうした悲劇が繰り返されていることを、いま平和を享受している私たちは、考えていかなければならない。

(K)

対馬丸(6754トン)は、疎開者に乗せた和浦(かずうら)丸・暁空(ぎょうくう)丸と護衛艦の宇治(うじ)・蓮(はす)を含む計5隻の船団を組んで長崎を目指し出航しました。翌22日夜10時過ぎ、鹿児島県・悪石島の北西10kmで米潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没。建造から30年も経った老朽貨物船・対馬丸は航行速度が遅く、潜水艦の格好の標的となりました。ほとんどの乗船者は船倉に取り残され、海に飛び込んだ人も台風の接近に伴う高波にのまれました。イカダにすがって漂流した人々は、付近の漁船や海軍の哨戒艇に救助されたほか、何日も漂流して奄美大島まで流されるなどして生き延びたのです。

救助された人々には「箝口令(かんこうれい)」がしかれ、対馬丸が撃沈された事実を話すことを禁じられました。犠牲者や生存者に関する詳細な調査も行われず、沖縄に残された家族に正しい情報が伝わることはありませんでした。大人が起こした戦争の為に理不尽にも幼い子どもたちがその犠牲になったことから、戦後「学童疎開船」対馬丸の悲劇」として語られるようになっていきました。

沖縄平和学習に参加して⑤

『願う』平和から『叶える』平和へ 一人ひとりが『ついに』語り継ぐこと

沖縄平和学習二日目、嘉手納・読谷・嘉数と見学した後那覇市内にある首里城を訪れた。地下にある駐車場に車を停めて、丘を上がっていく。いくつかの門をくぐりぬけ奉神門を開けると正殿がどっしりと構えている。正殿を正面にとらえ左を北殿、右側に南殿・番所があり、正殿と南殿の間に書院・鎖之間が存

在する。中央には御庭があり、先ほどの殿が四方を囲む形となっている。赤を基調としたこの建物は、かつての琉球王国の繁栄を肌で感じることででき神々しさすら覚える。この地を訪ねたころは、ちょうど正午に届く時折だった。同行していた那覇中郵支部の方が、黙とうの合図を示した。派遣者全員が南方、

多くの人々が海に身を投じ犠牲となつたとされる摩文仁の丘のある方角に体を向け、正午のサイレンと同時に目を閉じた。遠くでうっすらと汽笛の音が聞こえた。昨日訪れた摩文仁の丘から見える海岸線が再び脳裏を掠め、なぜか悲しい気持ちになった。

首里城を後にし、那覇市内で手打ち首里そばを昼食で頂いた。かつおと豚のだしであっさりとした中にも風味豊かなスープ、そして如何にも手打ちらしい不揃いな太さの麺が咀嚼する楽しさを倍増させた。現地の方ならではのセレクトに心から感謝した。昼食後、多少の時間を使っ



て泡盛専門店の『泡盛館』に立ち寄ることとした。決して広いとは言えない店内だが、棚には多数の泡盛が並んでいる。大きな壺に入った泡盛もあり気になったので聞いてみると、家庭によつては結婚や、子や孫の誕生などのお祝いで購入するらしい。自然と内容量が減るらしく、原酒を継ぎ足されながら存在し家族を見守っていく。何とも奥深く温かい文化だと感じた。

その後、那覇市民会館大ホールで開催された2012平和オキナワ集会に参加した。第1部が政策研究大学院大学道下徳成准教授による『変わりゆくアジア情勢と日本の対応』と題した基調講演、第2部が平和式典で構成されており、式典では古賀連合会長より、沖縄復帰40周

年を迎え、沖縄の抱える問題を全国の仲間の問題としてとらえ行動する決意が述べられ、地元歓迎挨拶では仲村連合沖縄会長より、沖縄への過剰な負担に県民は差別と感じていること、労組は社会の不条理に立ち向かう存在でなければならぬことが告げられ、全国から集まった1500名にも及ぶ参加者が目を逸らす事無く聞き入っていた。その後、来賓挨拶として、沖縄県副知事が仲井眞知事メッセージを代読し、参集への感謝の意と恒久平和実現への取り組み要請が述べられ、工藤連合北海道会長より平和メッセージとして、沖縄戦で亡くなった方々への御冥福を祈ると同時に、6月に道内で実施された矢臼別での沖縄米海兵隊による実弾演習への対

応を踏まえ全国にメッセージを発信した。その後、連合沖縄会長から連合広島会長へとピースフラッグが授受され、恒久平和への思いが引き継がれた。最後に平和アピールを安次沖縄女性委員が朗読し満場一致の拍手の中で会は閉じられた。

本土面積の0.6%しかない沖縄に全国の米軍基地の74%が集中している現状、終戦後も過剰な負担を強いられている現実。慰霊の日に訪問した私達は、今集会のシンボルフレーズでもある『願う』平和から『叶える』平和へ、一人ひとりが『心ひとつに』語り継ぐ事の必要性を実感した。

命を望む

沖繩平和学習に参加して⑥

「魂魄の塔」をこの場所に建立したのは 沖繩の人の魂なんだと強く感じました

沖繩戦でなくなったひとの名前が黒の花崗岩に刻印され整然と並ぶ「平和の礎」の中をゆっくり歩いた私たちは、「魂魄（こんぱく）の塔」へ向かいました。

19時を過ぎてまだまだずいぶん明るい平和祈念公園から車で10分ほど移動しました。

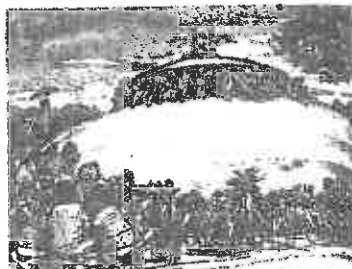
この「魂魄の塔」は、見た目は直径14〜15mほどの大きな土ま

じゆうを自然石で補強してある

だけでその真ん中に、ちよこんと「魂魄」と書

かれた石碑がのっかっていました。周囲はきれいに掃除されてい

て花が供えられています。ひめゆり平和祈念館や平和の礎を見て



きた私は、これはいったい何だろうと思ひ碑文を読んでみました。この塔は戦後すぐにこの地へ収容移住を許された旧真和志村民が、激しい爆撃によって地形は変わり果て、道路・畑の中・周辺いたるところに散乱していた遺体や遺骨を麻袋を持ってひろい集め、3万5千人分を祀り1946（昭和21）年2月に造ったものであるといひます。

私たちの立っている場所は、追いつめられた日本軍が南部へ撤退していき、住民を巻き込んだ戦闘でたくさんひとが亡くなった激戦地でした。ひめゆりの少女たちも6月18日に日本軍から「解散命令」を言い渡され、兵隊から「早く壕から出て行け」と押し出されるように壕を出ました。行く当て

もない学徒はまさに死線をさまよっていた場所でもあります。

戦後すぐに食べるものも満足にならないというときに、

3万5千人分という想像もできないほどたくさん骨を集め埋葬した。「魂魄の塔」をこの場所に建立したのは沖繩の人の魂なんだと強く感じ、あらためて珊瑚石の白い石を見つめました。

悲惨な沖繩戦：私たちは、沖繩平和学習の事前学習会でみんなでこの場所に行き、何を見るのか検討し論議してから沖繩へ向かいました。戦跡を目の前で実際に見て、肌で感じたものは参加者それぞれ多少違うでしょうが、平和な



社会を創っていくことの重要性和責任感をよりいっそう強くしたものだ。大切にしたいありません。

南風原病院壕の暗さと重圧感の中には入った者しかわからないう。ガイドさんの指示でライトを消した壕の中は、何も見えず漆黒の闇と深い静寂で満たされていました。

壕から出たときみんなの顔が一段と引き締まって見えたのは気のせいではないと思いました。

(K)

沖繩平和学習で考えたこと…

今回の沖繩平和学習では、自分自身で戦跡を歩き体験することを通して、悲惨な沖繩戦の現実について参加者全員が実感した。

しかし、ここで考えたいのは「ではなぜ沖繩の地上戦が起きてしまったのか…」ということである。

昭和初年ごろから日本は、日本の経済圏拡大のために武力を伴っておこなって来ました。1931(昭和6)年、「満州事変」をきっかけに中国東北部に「満州国」傀儡政府を樹立し、日本軍の監視下に置いた。

中国・東南アジアへ戦場を拡大する日本に対して、アメリカ・イギリス・中国・オランダが石油の輸出禁止などの制裁措置を実施しました。資源のない日本は「大東亜共栄圏」を大義名分に、アジア・太平洋地域へ侵略の速度を加速させていきました。日本はアメリカとの対立がよりいっそう強くなりました。1941(昭和16)年12月8日、日本海軍はハワイの真珠湾へ奇襲攻撃、日本陸軍はマレー半島のコタバルに上陸し、アジア・太平洋戦争が始まり泥沼の戦争となりました。

日 刊
新東京

No.923

2012年
7月13日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

沖繩平和学習に参加して終

沖繩県の全市町村会議41議会が反対 新たな負担を沖繩に強いていることに怒り

6月22日から6月23日の「沖繩慰霊の日」にあわせて、新東京支部独自で沖繩平和学習を取り組みました。各分会より9名の参加者で沖繩の地へ飛んだ。

沖繩現地では、J P 労組那覇中郵支部の皆様にご多大なるご協力をしていただき、ただただ感謝の言葉しか浮かびません。改

めて全国単一組織であるJ P 労組としての仲間の大切さを感じました。

戦後67年を経て、また沖繩の日本復帰40周年の今日、日本全国の米軍基地が70%ありその負担を強いられ、また新たな負担として米軍輸送機オスプレイの配備が政府決定されている現状です。沖繩県の全市町村会議41

議会すべてが反対の意思表示を行っている状況での国の対応がまた新たな負担を沖繩に強いていることに怒りすら感じます。

6月23日「沖繩慰霊の日」に来沖した野田首相が平和公園での慰霊式典であいさつしました。が、沖繩の痛み、苦悩を感じる事ができなかったのは私だけではないでしょう。沖繩の人が口にする「内地のひと」の意味することをもう一度考えてみたい。

沖繩平和学習で平和祈念公園やひめゆりの塔など様々な戦跡をめぐり、高校生や多くの地元のひとつがゴミを拾う清掃活動をしている姿などをみて「平和教育」の必要性を感じました。

最後に「普天間基地」について触れたい。普天間基地が見渡

せる高台に立ち、この基地はまさに住宅街の中心に存在し、周辺には市役所、大学、高校、小中学校があります。市街地に基地がある状況。沖縄県が総意として求める県外移設は絶対必要だと感じました。

J P 労組として組織統一して5年経ちますが、なかなか「国の基本政策」の対応・考え方を組織として示せない状況です。

命に関わる「原発」問題、平和の課題などについては引き続き支部として学習しあう場を作っていくかと思し、今後も継続してこのような平和学習会を新東京支部として続けて欲しいと思います。

(S)

さよなら原発10万人集会
2012年7月16日（月・祝）
代々木公園12時～

全国大会責任傍聴参加の感想 今回、代議員と傍聴者あわせて800人近い仲間が集まり熱い議論をしてきました。皆んな、会社や待遇を良くしたいという気持ちがあふれていて、私もみんなの力になりたいという気持ちがありました。何ができるか正直わかりませんが、仲間と大いに議論をし、職場環境や会社に対して疑問をもち、ひとつずつ解決してよりよい職場風土を作れたらと思います。

また、多くの仲間どうして、活発な意見を出し合う環境整備があってもいいのかなと思います。今回、全国大会に行かせてもらえたからこそ、学ぶことも多く、会社の現状を知ることができました。私も含め、みんなが会社のことをもっと知ることからはじめて関心をもつことだと思います。ひとまかせはよくないです。一人一人がちゃんと意見を言えて、考えをもてる人材育成も大事です。自分の職場のことなので、皆さんにも、色々考えていただけたらと思います。

(K)

全国大会責任傍聴参加の感想 今回初めての参加となりました。全国どこの職場でも仕事が大変厳しい状況のなか労働組合活動すること自体も大変だと実感した三日間でした。今大会の議案にもある「新たな人事・給与制度」からも、これからの私達の職場生活が厳しくなるのは避けられません。だからこそ組合の力がさらに求められることになると思います。

忙しくも短い三日間でしたが大変貴重な時間を過ごすことができました。今大会での多くの地本の発言が労働者の団結と連帯で道が開けると信じていきたいです。

(K)

日 刊

ア 新東京

No.924

2012年
7月17日(火)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線4353

第5回定期地方大会

選択と集中、心ひとつに頑張ろう

7月11、12日の二日に渡って、JP労組東京第5回定期地方大会が、鬼怒川あさやホテルで行われた。

冒頭の執行委員長挨拶では、これまでの組合活動への絶大な協力への感謝の意が述べられた後、来賓の紹介がなされた。更に、昨年度の総括と来年度の活動方針について報告と提案があり、総括では、東北の大災害を機に『心ひとつ運動』の推進、日本郵政グループの事業課題の克服、郵政改革への対応、組織基盤の確立等重点項目と

して取り組んだことの報告があった。とりわけ、東京で開かれた第5回定期全国大会において、東京31000人組織達成という実績の下、全国の仲間への牽引役としての役目が達成できた事に対して感謝の意が述べられた。

そして、今大会の任務として、毎月11日を『心ひとつにデー』としての取組継続・強化、郵政事業の成長発展に向けた諸課題の克服、ゆるぎない組織基盤の確立(32000人組織達成にむけての飽くなき追求)、参議院選挙を始めとした各選挙

での組織内・推薦候補の必勝に向けた行動等の重要課題について組織の総力を挙げて取り組むことを確認することが告げられた。

また、みらい研加入者の更なる拡大の必要性、2012春闘を振り返り2013春闘での組合員の処遇の早期回復に向けて事業環境の改善の重要性、民間会社として相応しい新たな人事給与制度の誤りなき制度構築などが提案された。

その後、来年7月の参議院選挙において、組織内候補として擁立が決定した『さだみつ克之』氏より、組合員の希望と安心を勝ち取ること、社会全体、日本全体の希望と安心を確保する郵政事業の創造への約束が決意として述べられた。

その後、各種表彰が行われ、支部組織活動表彰では二年連続で東京郵便輸送支部が最優秀を受賞、新東京支部は、機関紙表彰で優秀賞を受賞した。

二日にかけての質疑討論では、主に、適正な要員配置や高次の労使関係、局会社と統合後の業務フロー、人事・給与制度などの意見が中心だった。

新東京支部からは、初日、下山代議員より、組拡における目標未達に対しての謝罪、事業環境を考慮した支部・分会運営の提案、議案の全面的支持を表明後、新東京支部独自で企画実施した放射能の人体への影響を学習するセミナー、東京大空襲平和集会参加と千羽鶴寄贈、戦争に関する知識習得を目的とした沖縄学習などの活動を報告、安心・安全・平和な社会創造に向けた取組の重要性を提

案し会場から拍手喝さいを受けた。

二日目には、菅家代議員が発言、重複は避け簡潔に話すことを述べ、鉄製パレット使用における危険性報告後、仕様変更の要請、さらに輸送部門の組合員の雇用の絶対確保を東京全体の総意としたい旨意見し、東京地本からは、「鉄製パレットの危険性は認識、次配備で改善を本部に求める事。輸送の雇用処遇問題は輸送部門のみの問題としてとらえず東京全体の意見として求めていく。」との回答を得た。

最後に小林東京地本書記長から、今回出された多くの意見に適切に対応すること、郵政グループ事業発展に向けた行動強化、最重要課題として来年7月の参議院選挙『さだみつ克之』絶対勝利に向けて東京全体で

確認し、選択と集中で行動を収斂し何としてでも勝ち取ることを約束し閉会した。

〔編集後記〕

今回、初めて地方大会を傍聴する機会を与えて頂いた事に感謝すると共に、本当にたくさんのことを学ぶことができました。東京全体から様々な職種が一堂に会し意見を出し合うため、内容が十分理解できないところもありました。支部によっては分会会議で議論すべき内容の発言と感ずるところや、時間の制約により発言を遮るような議事の進行も見受けられ、いささか残念と感ずる部分もありました(支部大会の方が身近で緊張感を感じました)が、他支部(特に中央連協)の方と交流し、様々な意見を聴くことが出来、また、翌日は連帯して質疑に臨むなど多くの経験と感動を享受出来たことに大きな喜びを感じました。

編集委員 Y

日 刊	新東京	No.926	2012年7月19日(木)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
		03-5606-6784	内線 4353

「さようなら原発10万人集会」に 7・16 17万人結集 参加してきました

7月16日、原水爆禁止日本国民会議（原水禁）や、「さようなら原発1000万人アクション」の内橋克人さん、大江健三郎さん、落合恵子さん、鎌田慧さん、坂本龍一さん、澤地久枝さん、瀬戸内寂聴さんらが呼びかけていた「さようなら原発10万人集会 7・16」に参加してきました。

集会には主催者の思惑を大きく越えて、会場の代々木公園や道路は身動きのとれないくらいの人で埋まりました。ありとあらゆる労働組合や市民団体の旗が翻り、労組員やさまざまな団体・市民が集まりました。日本の脱原発運動としてはこれまでで最大の17万人が集まった大きな集会となりました。

混雑が予想されたので、11時半過ぎにはメイン会場に集合しました。12時過ぎからメイン会場の第1ステージで小室等さんなどによるオープニングライブからスタートしました。オープニングライブにゲストで参加した永六輔さん、佐高信さんは「たかがお湯を沸かすのに原子力が必要なのか!」「再稼働決定した、のだドジョウはゆるせない」とそれぞれ発言しました。

続いて本集会が開かれ、まず7人の呼びかけ人があいさつしました。作家の鎌田慧さんは「780万筆の署名を官房長官に手渡した翌日に、野田首相は再稼働を決定した。国民の声明と命を守らない政府は認めることはできない」と訴えた上で、政府が今行っている2030年のエネルギー政策のあり方の検討について「絶対に原発ゼロにさせなければならない。そのためにどんどん意見を言っていこう」と呼びかけました。

音楽家の坂本龍一さんは「この会場には40年前の日米安保のときに来たことがある。たかが電気のために、なぜ命を危険にさらさなければならないのか。お金よりも命が大事だ!福島のとに沈黙するのは野蛮だ!」と訴えました。

経済評論家の内橋克人さんは、一部で起きている脱原発運動への中傷などを批判し「あらたな原発再稼働計画が目白押しである。国民の合意なき国策によって、日本中に原発が作られてきたことに、はっきりと“さようなら”の声をあげよう!」と語りました。

作家の大江健三郎さんは、昨年来の1000万人署名などの原発反対運動の高ま

りのなか「この運動は勝つと確信した。しかし、大飯の原発再稼働を許してしまった。これは私たちが侮辱されているということだ。しっかりやり抜こう」と強調しました。

作家の落合恵子さんも「コンクリートからひとへ…と言っていたひとが、命より原発を選びました。原発はいりません。再稼働もいりません。唯一守るのは命です。オスプレイも基地も反対です。すべての命を脅かすものに対峙していきましょう」と、再稼働を容認した野田首相を厳しく批判しました。

澤地久枝さんは、集会に子どもたちも多く参加していることをあげ「未来に続いていく命のために、私たちが今できることをやろう！自分が死ぬときに後悔しないと思えるようにしていきたい。命が大切、日本政府は福島ふるさとをなくした」と訴えました。

作家の瀬戸内寂聴さんは「90才になりましたが、冥土のみやげに見てみたかったので参加しました。100年前、大逆事件が起き『青鞥（せいとう）』というものを書いた。これまでも、日本では政府に文句を言う自由が奪われた時代があった。あたらしい政治を考えたひとは、全員捕まってしまった。過去の人がたくさん苦勞して、反逆し抗してきたので今の社会がある。人間が生きるということは、自分以外の人の幸せのために生きていくことだ。悪いことはやめさせるよう政府に言い続けよう」と90才とは思えない元気な声で呼びかけました。

原発問題の講演・著作も多い評論家の広瀬隆さんが「政府の言う電力不足は全くのウソだ。日本では、この一年間でエンジン式発電機を原発10基分生産している。大飯原発は巨大地震に見舞われる危険な地帯にある。国民に一時的な負担があっても、まず原発を止めよう」と具体的に提起がありました。

再稼働された大飯原発のある福井から、中寫哲演さん（小浜市明通寺の住職）が参加し「大飯原発再稼働は、死刑判決を受けたようなものだ。住民を無視した巨大な利権構造がある。第2のフクシマにしてはならない」と訴えました。

集会の最後に、昨年9月19日の明治公園での6万人集会のスピーチでも感動を呼んだ武藤類子さん（ハイロ（廃炉）アクション福島原発40年実行委員会）が壇上に立ち、「1年余にわたって、1人ひとりが考え、様々なことをやり遂げてきた」ことを讃えようと呼びかけながら、「絶望こそ希望だ、という言葉もある。声なき声をとものにあげ、分断されることなく、ともに歩んでいこう」と力強く訴えました。

パレードデモ行進が新宿コース、明治公園コース、恵比寿コースと3つのコースに分かれて行われました。会場から道路に出るまで1時間半、デモ行進で1時間半、プラカードや横断幕そしてうちわなどにメッセージを込めて「原発反対！」「再稼働を許すな！」などとアピールしながら、暑い暑い暑いなか、元気よくデモ行進しました。（投稿）

日刊
新東京

No. 927

2012年
7月20日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

沖繩の現実を学び 平和をつくろう

『沖繩』へのいざない

新東京支部は沖繩現地に行き
平和学習をおこなってきた。

参加者の生き生きした感想が
七月二日からの日刊紙に掲載さ
れました。

体験話と同時に支部組合事務
室には沖繩現地で入手した関連
資料や冊子、パンフレットがあ
ります。その紹介をします。

・『命こそ宝』阿波根昌鴻（岩
波新書）

・『沖繩絵本』戸井昌造（平凡
社）

・『沖繩「戦後」ゼロ年』日取
真俊（NHK出版）沖繩は戦争
と占領が今も続いていると訴え
ています。

・『沖繩の怒り（コザ事件・米
兵少女暴行事件）』伊佐千尋（文
春文庫）『炎上』の改訂版

・『対馬丸ガイドブック』（東洋
企画）、『対馬丸通信』（対馬丸

記念会）対馬丸で学童疎開中、
攻撃にあい、死者一四七六名中
・児童七〇八名の命が奪われた
悲劇が書かれています。

・『おきなわの戦跡と基地』（す
くえあ出版）沖繩の今をわかり
やすく紹介している

・『2012平和行動・沖繩』
（連合）連合「平和オキナワ集
会」の案内パンフレット

・『沖繩タイムス』『琉球新報』
慰霊の日をリアルに報道した。
本土との温度差を実感して見て
下さい。

また、八月の広島・長崎原爆
投下、終戦記念に関連した本も
多くあります（近いうちに紹介
します）。ぜひ組合事務室に立
ち寄って手にして、沖繩と今の
平和を一緒に考えましょう。

郵政退職者会（郵政退協）から送られてきました。紹介します

郵政退協東京中部地区協議会

第三七回総会を七月二八日に開催

郵政退協東京中部地区協議会の第三七回定期総会を告示のとおり七月二八日神田局会議室で開催します。

この一年間、退職者を取りまく環境は政府の「社会保障と税の一体改革」などもあり、ますます厳しくなってきています。また、退職者（高齢者）と現役の負担割合も大きな問題で世論にどう説明していくか、課題は尽きません。

東日本の災害・原発事故では私たちもカンパ運動に取り組み、会員の皆様にも多大のご協力をいただいで被災三県にお送りし、現地の郵政退協から感謝の言葉をいただいております。全国の郵政退協の絆を強めること

ができました。

中部退協の会員は八八〇名です。退職者会は二〇年で八割が入れ替わります。

新しい会員を一人でも多く結集して、自らの生活を守るため、職場で得た仲間意識を大切にしていく活動を進めていきます。

健康と友情を確かめるため、多数の参加をお願いします。

総会後はいつものように交流・懇親も計画しております。

郵政退職者会東京中部地区協議会

会長 畑中 正直



発行 郵政退職者会
東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-20-6
電話 03-3497-5161
口座 中央労金本店 1119485 番
振替 00180-2-176158
定価 一部 15円
会員の購読料は会費の中に含む

郵政退職者会

退協会員の皆さん、毎日お元気で過ごしてですか！ 仲間のつながり「郵政退

キケンだけじゃない危険

オスプレイの名前は猛禽類のタカの一
 種のミサゴ (osprey) から名付けら
 れた。

今日、話題の米軍新型兵員輸送機
 オスプレイが米軍岩国基地（山口県岩
 国市）へ搬入して試験飛行し、10月
 初旬に普天間飛行場で本格運用すると
 計画されている。



配備計画 米海兵隊は世界で約140機を運用中で最終的に
 60機導入する。日本政府は現行のCH46中型ヘリコプ
 ターの後継機として24機配備予定している。

日本全土が米軍支配下に

キャンプ富士や岩国基地、本州や四国、九州各地で低空飛
 行訓練を6ルートで計画。7つ目のルートがなぜか秘密。
 各ルートで年間55回、計約330回が予定。

この訓練は午後遅くから夜間、上空152メートルと
 いう低高度を、時速460キロで飛行する。

2006～11年の5年間に58件の事故を起こし
 30人以上の死者を出している。

オスプレイの性能

現行のCH46中型ヘリコプターと比べると速度が2倍、
 積載量は3倍、行動半径が4倍の600キロと飛躍的に

強化されている。

専門家は「尖閣諸島は那覇から約420キロに位置であり、尖閣有事には配備予定の普天間飛行場から即応できる」と語っている。

北朝鮮の核・ミサイル開発や中国の海軍力強化と海洋進出、米国の軍事強化・軍事演習などキナ臭さが増している中で、米海兵隊の装備・能力を飛躍的に向上させるオスプレイの導入は、より対立に拍車をかけることになる。

このことがよりキケンで恐ろしい。

政府は「配備自体は米国政府の方針だ。どうしろ、こうしろという話ではない」(野田首相=16日フジテレビ)として拒否しない。恐ろしい時代になってきた。(投稿)

郵政退協

核兵器廃絶を求める長崎平和集会の 郵政退協独自集會に中部代表を派遣

郵政退職者会は戦争反対、核兵器廃絶を訴える平和運動を活動の柱として、隔年ごとに広島・長崎の被災地で平和集會を開いてきました。

本年も連合・原水禁・核禁會議の三者統一平和集會に参加しつつ、郵政退協独自の平和集會を八月七日から三日間長崎の地で開催します。

この独自平和集會は連合や他の退職者団体の方々から高い評価と絶賛の声が寄せられています。

消費税やPTT、更には尖閣諸島問題などで軍備拡大、戦争の匂いがするこの頃、この取り組みを益々強めなければなりません。

本年も是非代表を派遣したいと思っております。会員の皆様のご協力をお願いします。

日 刊	JP新東京	No.929	2012年7月24日(火)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

大型生命共済「きずな」平成23年度分の

配当率等のお知らせ

大型生命共済「きずな」平成23年度分（平成23年4月～平成24年3月）の配当金が確定しました。

下記のとおり配当率及び送金スケジュール等をお知らせいたします。

1. 大型生命共済「きずな」配当率
平成23年度掛金の

19.220%

2. 配当金送金等

2012年7月30日（月）に、「きずな」加入者が指定したゆうちょ口座、または労金預金口座に送金します。

3. 配当通知書等の交付

「きずな」加入組合員の配当通知書を分会役員が配布します。

【本件に関する照会先】

大型生命共済「きずな」お問い合わせセンター

フリーダイヤル：0120-70-4115

受付時間：9：00～17：45（土・日曜、祝日除）

当紙「日刊J P 新東京」 地方大会にて「優秀賞」を受賞

第5回定期地方大会において「支部組織活動」及び「機関紙・誌コンクール」他の表彰がおこなわれました。新東京支部においては当紙

「日刊J P 新東京」が機関紙の部の「優秀賞」を受賞しました。他支部の表彰と併せてお知らせいたします。



(1) 支部組織表彰

- ア 最優秀支部
- イ 優秀支部
- ウ 努力賞

東京郵便輸送支部

東京国際支部・東京中央支部・葛飾支部

文京荒川支部・豊島支部・東京中央南支部

宿泊事業支部・多摩北支部・西多摩支部

エ 組織拡大特別賞

本社支部

(2) 第1回機関紙・誌コンクール表彰

ア 機関紙の部

(ア) 最優秀賞

(イ) 優秀賞

(ウ) 努力賞

本社支部「J P 労組本社ニュース」

新東京支部「日刊J P 新東京」

東京銀座支部「飛躍」

東京北部支部「ほくぶ」

多摩東北支部「多摩東北ニュース」

イ 機関誌の部

(ア) 最優秀賞

(イ) 優秀賞

(ウ) 努力賞

(エ) 特別賞

東京西北支部「リアライズ」

東京北部支部荒川分会「荒川分会ニュース」

東京西南支部品川分会「ACT.」

東京北部支部上野分会「うえの」

東京西北支部ユースネットワーク「change」

日
刊

JP新東京

No.931

2012年7月26日(木)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

第6回分会会議開催！ 一普分会

7月25日(水)、2階の事務室において第4回定期支部大会以降6回目となる分会会議を開催しました。

今回の議題は、一年間の分会活動の総括及び第5回定期支部大会に向けた意見集約、職場での問題点、組織拡大の取り組み等について議論が行われました。

冒頭、木村分会長より挨拶をいただいた後、高橋書記長の進行で会議が進められ、一年間の分会活動経過について報告がありました。

定期的な分会会議の開催、宮城県七ヶ浜町ボランティア行動や江東区主催「町をきれいにする運動」といった地域貢献活動への参加、「忘れてはならない東京大空襲」平和集会や沖縄平和学習会など平和行動への参加、東京地本主催のスパークリングセミナーへの参加や定期全国大会及び定期地方大会の傍聴等、この一年間様々な活動をする事ができました。しかしながら、組織拡大については目標を大きく下回った結果となり日常の世話役活動をはじめ取り組み不足を痛感しました。

活動経過報告の後、第5回定期支部大会の議案審議に入り職場の問題点も含めて意見集約がされ、当日の発言内容について確認しました。

最後に来期はなんとしても組織拡大を成し遂げるということを参加者全員が確認して会議が終了となりました。



今年も開催しました！

去る7月6日(金)、東京ドームにて「一普分会 フロ野球観戦レク」を昨年に続き開催しました。

今年のカードは、伝統の巨人×阪神戦ともあり東京ドームの中はほぼ満員、一普だけでも30名が参加し白熱する野球観戦を楽しみました。

試合は初回から巨人が大量リードし阪神が追い上げる展開に。終盤、阪神の猛追を巨人のリリーフ陣が踏ん張り巨人が逃げ切り勝ちを収めました。

当日は多くの期間雇用社員の参加や、二普や二特といった他分会からの参加もあり交流が図られました。



～試合終了後みんなでお記念撮影～

日 刊 JP新東京	No.932	2012年7月27日(金)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

2012年度10月期 経営効率化勸奨退職実施のお知らせ

- ◎郵便事業・郵便局会社ともに会社統合を踏まえ10月末
- ◎社員周知は8月1日(水)～20日(月)の20日間
- ◎2013年3月末の一般社員の勸奨退職は実施しない

(1)選考対象者 年齢50歳以上の者(管理社員を除く)のうち、その退職を適当と認められる者。 ※年齢は退職日の満年齢

(2)退職者の承認 勸奨退職の承認については、別途選考の上、決定するものであることから、退職を希望した社員の希望が必ずしも承認されるものではない。

(3)実施日 2012年10月31日(水)

(4)周知・勸奨期間 8月1日(水)から20日(月)までの20日間

(5)退職に伴う優遇措置

ア 退職手当 郵便事業株式会社および郵便局株式会社退職手当規程及び同手続に定める勸奨による退職の場合の退職手当支給率を適用。

イ 基本給の調整額 50歳以上53歳未満4300円、53歳以上56歳未満3800円、56歳以上3500円(支給月額)

(6)失業等給付の求職者給付(基本手当)の扱い

この「高齢勸奨退職」は、本人からの申し出・希望に基づく自己都合退職のため、離職理由による3か月間の給付制限を受ける場合がある(最終的な給付の有無は、各ハローワークの判断)。

(7)今後の予定 一般社員の勸奨退職は2013年3月末に実施しない予定。

JP労組本部は、本年3月末の勸奨退職実施に際し郵便事業会社より「これまで郵便事業会社は8月末、郵便局会社は9月末に勸奨退職を実施していたが、会社統合による混乱を発生させないために、10月末日に両社同一の条件で実施する。」という説明を行なってきたものです。JP労組本部は、本年度は勸奨退職を実施しないと認識している郵便事業会社の組合員も多い中、一方で郵便局会社においてはその実施を期待している組合員も多いことから、実施に至った背景や実施概要などについて丁寧な周知を行なうことを確認しました。

日本郵政グループ労働組合新東京支部

公 示

第5回定期支部大会公示

日本郵政グループ労働組合規約第76条に基づき、日本郵政グループ労働組合新東京支部第5回定期支部大会を下記のとおり召集する。

日本郵政グループ労働組合規約第101条及び第102条に基づき、下記のとおり支部役員補充選挙を行うので公示する。

記

1. 選挙の種類

執行委員 3名

記

1. 名称 「日本郵政グループ労働組合新東京支部第5回定期支部大会」

2. 日時 2012年8月5日（日）10時00分～16時00分

2. 立候補の締切

2012年8月2日（木）18:00までに支部選挙管理委員会まで、立候補届を提出すること

3. 場所 ホテル ランゲウツド

4. 議案 (1) 第1号議案 2012年度活動方針（案）

(2) 第2号議案 2012年度予算（案）

以上、公示する。

2012年7月6日
日本郵政グループ労働組合
新東京支部 選挙管理委員会

2012年7月6日
日本郵政グループ労働組合
新東京支部

日 刊 新東京	No. 9 3 3	2012年7月30日 (月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

私たちががんばってます！ ただいま奮闘中(￣。￣;)

郵便企画と2輸送でそれぞれ正社員になり、この4月に窓口課に異動し業務にいそしんでいる2人のなでしこの「今」を語ってもらいました。

♡ 社員になって半年でまさかの異動にはびっくりしましたが、窓口の皆様のおかげで、なんとか頑張っています。今まで長い間計理で仕事をしていたので、郵便物に触るところからのスタートでした。今は私書箱とe内を勉強中ですが、覚える事がたくさんあって、毎日いっぱいいっぱいです。

時間はかかると思いますが、一つずつ覚えて早く仕事をこなせるようになりたいと思います(ビッキー)。

♡ 窓口課に異動して3ヶ月が経ちました。現場で実際に郵便物を扱うというところが、以前の職場と大きな違いです。郵便の種類など知らないことばかりでした。今は慣れない環境で日々学ぶことばかりですが、実際に窓口カウンターに座り、窓口事務機を扱うようになってから、少しずつ郵便の種類が分かるようになってきました。職場の人との人間関係も出来てきたので楽しいです。今の目標は一人で担務につけるようになることです。失敗や分からないことも多いですが、周りの人たちに助けてもらって、楽しみながら仕事をしていけるようになりたいです。周りの先輩たちを見習って、自分なりの仕事の仕方を身に付けられるようにがんばります(Yui)。

*窓口課の皆さま、この2人にこれからも厳しくもあたたかなご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願いします(支部執行部)。

政府は 国民の声を聞け

毎週金曜日の夕暮れになると、国会周辺ではすっかり風物詩になった人の群れが少しずつ増え始め、やがてデモの熱気に包まれてゆく・・・。

デモといえればかつて60年、70年に安保闘争があり、学生が中心となって反対運動を繰り広げていた。時には警察や機動隊と血生臭い力と力の衝突もあったが、しかし今回のデモは違う。

高齢者から若者、親子連れといった、まさしく国民のいろんな層の人たちが集まってデモ行進する、いたって平和的なデモだ。

4月に数百人程度の規模だったデモに対し、当初は首相も抗議の声を「音が騒がしい」と無視していたが、今では数万人の群衆の怒りの声に首相も無視できなくなってしまった。

その音は確かな声となり、17日に代々木公園で行われた集会で17万人（主催者発表）が「原発No!」ののろしを上げた。

熱しやすく冷めやすいと言われる日本人が反対の声を上げ続けるのは「福島」を忘れてはいけなから。「福島」抜きでは本当の安全を構築することはできないからだ。

政府、国会、民間、東電が提出した四つの見解（事故報告書）からは、安全に対する将来への具体策が見えてこない。国会事故調は事故の原因を人災と指摘したが、東電は想定外の津波が原因として落ち度を否定した。津波も地震が起きなければ発生しないはずなのに、地震による影響に対して明確な説明もない。誰も責任を取らず、事故の本質に肉薄できない政府は、活断層の疑いも指摘されている大飯原発をフル稼働させている。

福島第1原発の4号機から未使用の核燃料を試験的に数本取り出したが、私には進捗状況を誇示する為のパフォーマンスにしか見えない。内部は1500体以上の核燃料がああ時のままだ。

1～3号機の核燃料の状態も分からない。2号機からの汚水漏れも損傷箇所を特定できないため、格納容器を水棺状態にして核燃料を取り出す計画も進んでいない。収束への道のりはゴールがまだまだ見えないでいるのだ。

この福島から学んだ確かなこと。それは私たち人類は核を制御できないということ。発電量の1～2割のために命を代価にしてまで電気は必要ないということ。そして、あきらめることなく、原発反対の声を訴え続けていくということ。（あきべえ）